

目 次

I	標準化の意義	1
1	原版の意味	2
	(1) 定量的な記録を乗り越えた記述的な記録	2
	(2) 学習水準と学習様式に関する個人内差の診断	2
	(3) 個別的な指導計画の手掛り	3
2	翻案版の特徴	4
	(1) 臨床経験に裏打ちされた定量的・記述的な診断	4
	(2) 取り組みの力動的な計画化	8
II	標準化の経過	11
1	評定尺度の設定	11
2	検査対象の選定	12
	(1) 選定の基準	12
	(2) 検査対象者の内訳	12
3	検査結果の統計的処理	13
	(1) 翻案版の論理的妥当性の検討	13
	(2) 決定版の得点の正規化	17
	(3) 決定版の相関と信頼度の検討	18
	(4) 決定版の統計的妥当性の検討	23
	(5) まとめ	33
章末1	C得点一覧表	35
章末2	内部相関係数一覧表	49
章末3	信頼度表	68
章末4	相関の有意性検定一覧表	69
	文献	81